

宿縁

七月号

厄介な心を

コントロールする



今年の夏はこれまでも増して厳しい暑さになりそうで先が思いやられます。同時に暑さからくるいらいらが思わぬ事件を起こすことにもなりかねないので、身心を平静に保つよう心がけたいものです。よくテレビCMで流れてくる交差点を渡っている人と人の肩がぶつかり合う映像がありますね。

セトモノとセトモノと、ぶつかりっこするとすぐこわれちゃう

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

浄土真宗
本願寺派 **中原寺**

TEL 0477-372102
FAX 0477-372102

どっちかやわらかければいいようにぶやわらかいところをもちましよう
そういうわたしはいつもセトモノ。

相田みつをさんの詩です。

心に余裕を持たなくては、ということですが皆さんはどのように聞かれていますか。

一日の私たちの心のありようは、他人のしぐさや言葉や態度によって始終激しく左右されています。心ほど御しくいものはありません。相田みつをさんの「わたしはいつもセトモノ」は、清らかな仏の心に写った自戒の言葉なのでしょう。

仏教聖典には次のように示されています。

「迷いもさとりも心から現われ、すべてのものは心によってつくられる。ちょうど手品師が、いろいろなものを自由に現わすようなものである。人の心の変化には限りがなく、そのはたらきにも限りがない。

汚れた心からは汚れた世界が現れ、清らかな心からは清らかな世界が現れるから下界の変化にも限りがない。

このように、この世界は心に導かれ、心に引きずられ、心の支配を受けている。迷いの心によって、悩みに満ちた世界が現れる。

すべてのものは、みな心を先とし、心を主とし、心から成っている。汚れた心でものを言い、また身で行うと、苦しみがその人に従うのは、ちょうど牽く牛に車が従うようなものである」と。

そして、浄土教の七高僧の第六祖源信僧都(1017年寂)は、

「人の心は水の器に従う如し。器方(うつわほう)なれば則ち方なり。器円(うつわま)るれば則ち円し」といっています。

昔から「水は方円の器にしたがう」といいます。円型の入れ物に水を入れますと水も円型です。四角い入れ物に水をうつつしかえますと今度は水も四角い型になります。人間の心も同じことで、周囲の状況次第で心は美しくもなりますし、汚れもします。他からの影響を受けやすいのが心です。

あなたが相手に対して、心にほほえみをもつて接したら、相手の人もあなたに好意をもちますし、あなたが、心にいかりを抱いて接したら、相手の人も不快感を抱きます。どんなに小さいことであろうと、他人がしてくれたことにあなたが感謝の気もちをもつたら、相手の人もよろこびを感じます。このように、自分の心も相手の心も同じように変わってゆくものです。一日にどれほど心が変わっていきでしょうか。まったく少しもじつとじていません。

そこで、真の安らぎを得るために正しく心を統一することが必要です。いわゆる精神統一です。精神統一をして、静かな心で仏のことをおもったり、無常の道理を考えたりしますと、心が純粹になり、正しい智慧を得ることができるようになります。このように、私たちが

仏のさとりを得る方法の一つとして、正しい心の統一をあげています。

日常生活でも、心を静め、精神を集中することは大切なことです。そうすることによって物事を的確に判断することができまますし、仕事に専念することができまます。欲望にふりまわされて身をもちくずすことがなくなりまます。

心の落ち着く一つの方法に仏像の美しいお姿を拝するということがあります。

今月7月10日まで東京国立博物館では奈良中宮寺の国宝「半跏思惟像」(如意輪観音菩薩)が展示されました。飛鳥時代聖徳太子によって法隆寺とともに創建され、本尊とされたこの仏像の美しさは言葉では言い尽くせないものがあります。国宝第一号のにも並び称されるその優しいほほえみは一点のくもりなき御仏のお心を表しています。半跏の姿勢で左の足を垂れ、右の足を膝の上に置き、右手を曲げて、その指先をほのかに頬に触れんばかりの優美なお姿は、いかにも人間の救いをいかにせんと思惟されるにふさわしい清純な仏としての気品をたたえています。

そして、できれば仏像のお姿はお寺で拝したいものです。安置されている本堂は仏の世界を表現した場ですから静かに座して仰ぎ見るとき、きつと理屈抜きにみ仏のお心が伝わってきます。

複雑な人間関係に悩むとき、我が心のコントロールがゆらぐとき、いつときテレビから離れ、あふれる世間の情報からも脱して、静かにみ仏と対面してみたら如何でしょう。

【寺灯雑記】

○臨床僧侶としての活動を聞く

6/14

千葉組仏教婦人会「みのり会」の研修会が千葉県教育会館大ホールで開催され、県内より342名(当寺から16名)が出席しました。

今回の講師は鹿児島県善福寺のご住職でもあり、臨床僧侶として活躍されている長倉伯博師が午前と午後にわたり「温もりと笑顔の中で―ベッドサイドに僧侶がいる風景―」と題してお話になりました。

先生は経験された症例をまとめた著書「ミトルヒト」(本願寺出版社)をもとに、今社会的に関心が高まっている「看取り」について私たちに熱心に語りかけ、深く心を動かされました。

特にその中で、具体的に三つの事柄について教えをいただきました。

- ① ベッドサイドでの基本姿勢(感謝、傾聴、受容、響感―共感)
- ② 生死観(死生観)人生の物語を語り合うことよって再構築し、その意味を考える。
- ③ 「死にたい」や「死んだほうがましだ」という訴えへの対応。

このたびの講演からは、「生老病死」の苦しみや悲しみを抱えた人々を全人的に支援するケアの大切さを深く心にとどめました。

「あなた往く人、私も少し遅れて往く人、共に浄土に歩む人」

○築地本願寺合唱団訪問コンサート

6/19

築地本願寺合唱団「楽友会」のみなさん20名が二十八年度の一日研修として当寺へ来訪、本堂でコンサートを催し美しいコーラスを聞かせてくれました。

ピアノ奏者も指揮者も音大でのプロ。プログラムは献灯・献花・献香偈に始まる音楽礼拝。仏教讃歌9曲(生きる、まるいころ、娘たちよ、いのちまいにちあたらしい、などを披露、お寺の境内いっぱいに見事な歌声が響き渡りました。

この後は常例法座でこの日の講師山田義俊師の法話を聴聞し、聞法会館では当寺の参加者共々懇親会を開いて歓談しました。

○門徒推進員中央教修に参加

6/24〜27

この程、京都本山の聞法会館で行われた三泊四日の門徒推進員中央教修に当寺の山奥努さんが参加されました。

門徒推進員とは、僧侶と門信徒がともに「御同朋の社会をめざす運動」を推進するための方策として、各組において2年間を1期とする「門徒推進員養成連続研修会」が開催され、その修了者を対象に、本山上4日間の「門徒推進員中央教修」が行われています。

山奥さんは多田羅健二さん、高木史人さんに次いで三人目となりました。今回の参加者46名は殆んどが西日本の方たちでしたが、話し合い法座を中心にとっても充実した日程の学びであったとそのよるこびを語っています。益々のご活躍が期待されます。

○ファミリィパーティー実行委が会合

7/3

来る7月31日に開催される恒例の夏の行事、第25回門信徒ファミリィパーティー実行委員会が開かれ、行事内容について検討、確認等を行いました。

今回は、人気の素人劇団「おとめ座」が最終公演となる予定。また、市内のサークル「アングルン」出演で、インドネシア民族楽器の演奏が決まりました。

そのほか模擬店や盆踊り、抽選会など楽しい企画を用意。是非若い世代・友達・お子さま方も誘ってお気軽におでかけください。きつとお寺って楽しい所と思っただけでしよう。

【ご案内と募集】

☆門信徒ファミリィパーティー開催

*七月三十一日(日) 一時半受付

二時開始

(雨天決行)

演奏会、おとめ座劇、各種模擬店、ゲーム、盆踊り、抽選会など。

*参加費…大人1000円、子供無料
どうぞお気軽な服装でお楽しみいただきますようお待ちしております。

尚駐車場も会場となるためお車でのご来場はご遠慮ください。

☆孟蘭盆会法要修行

(並びに全戦没者追悼法要)

*八月十一日(祝日) 午前十時

仏説阿弥陀經

講師…ケネス田中師(武蔵野大学教授)

浄土真宗では歓喜会とも申します。

仏弟子目連尊者の亡母が、目連の積尊への供養と帰依によって救われた故事に則り、生者の私たちが仏法に遇うご縁をよるごぶ法会です。大切に思いご参詣ください。

☆第21回夏休み子ども合宿参加者募集

*八月二十日(土)〜二十一日(日)

(1泊2日)

・参加対象…小学生、4〜6歳園児

・参加費…3000円

・募集定員…30名

・締め切り…8月10日

夏休みの思い出にお寺に泊まってみませんか?

合掌のできる子、感謝のできる子どもたちを育てましょう。今こそこころの教育に目を向けなければいけません。

どうぞお仲間を誘ってご参加ください。

【法座・行事案内】

○常例法座

七月十八日(祝) 一時

講師…成田真二郎師(横浜市善行寺)

○門信徒会役員会

七月十八日(祝) 二時半

○和讃に学ぶ

七月二十三日(土) 二時

【七月の掲示板のことば】

自分のことは

自分が一番知っていない